

2014年度公式戦 全試合結果

■高円宮杯 2014ホッケー日本リーグ

期間：2014年7・10・11・12月

会場：福井(越前町営朝日総合運動場) 奈良(親里ホッケー場) 京都(立命館大学校野ホッケー場) 福島(ルネサンス棚倉多目的広場)
宮城(栗原市築館多目的競技場) 富山(小矢部市ホッケー場) 埼玉(飯能市阿須運動公園ホッケー場) 山梨(山梨学院ホッケースタジアム)

節	日	期間	会場	対戦相手	試合結果
第1節	第1日	7月12日(土)	福井	福井クラブ	○3-2
	第2日	7月13日(日)	福井	岐阜朝日クラブ	○5-1
第2節	第3日	10月11日(土)	奈良	ALDER飯能	○1-0
	第4日	10月12日(日)	京都	立命館大学ホリーズ	○2-1
第3節	第5日	10月25日(土)	宮城	東京農業大学	○8-2
	第6日	10月26日(日)	福島	山梨学院OCTOBER EAGLES	○4-2
第4節	第7日	11月8日(土)	富山	小矢部RED OX	△2-2
	第8日	11月9日(日)	富山	法政大学	○10-0
第5節	第9日	12月13日(土)	埼玉	Selrio島根	○6-2
	第10日	12月14日(日)	埼玉	診療印刷	○5-2
第6節	最終日	12月21日(日)	山梨	天理大学ベアーズ	○2-1

■男子第56回全日本社会人ホッケー選手権大会

期 間：2014年7月18日(金)~7月23日(水)

開催地：和歌山/紀美野町スポーツ公園多目的人工芝グラウンド
マツゲンスポーツグラウンド

試合結果	対戦相手
7月20日(日) 2回戦 名古屋フラーテル ○6-0	樋脇ホッケークラブ
7月22日(火) 準々決勝 名古屋フラーテル ○5-0	小矢部RED OX
7月22日(火) 準決勝 名古屋フラーテル ○2-1	ALDER 飯能
7月23日(水) 決勝 名古屋フラーテル ○2-1	箕島ホッケークラブ



高円宮杯2014ホッケー日本リーグ (2年連続9回目)

■第35回東海ブロック大会兼第69回国民体育大会東海地区予選

期 間：2014年8月23日(土)、24日(日)

開催地：岐阜/岐阜県グリーンスタジアム

試合結果	対戦相手
8月23日(土) 準決勝 愛知(名古屋フラーテル) ○16-1	静岡県
8月24日(日) 決勝 愛知(名古屋フラーテル) ○3-0	岐阜県



第56回全日本社会人ホッケー選手権大会 (11年連続27回目)

■第69回国民体育大会ホッケー競技

期 間：2014年10月16日(木)~10月21日(火)

開催地：長崎/長崎県立佐世保青少年の天地プレイグラウンド

試合結果	対戦相手
10月18日(土) 1回戦 愛知(名古屋フラーテル) ○6-2	鹿児島県
10月20日(月) 準決勝 愛知(名古屋フラーテル) ○3-1	和歌山県
10月21日(火) 決勝 愛知(名古屋フラーテル) 濃霧・雨の為ノーゲーム	香川県



第69回国民体育大会ホッケー競技 (2年ぶり23回目)

■第88回全日本ホッケー選手権大会

期 間：2014年11月27日(木)~30日(日)、12月6日(土)~7日(日)

開催地：奈良/親里ホッケー場

試合結果	対戦相手
11月28日(金) 予選リーグ 名古屋フラーテル ○3-0	明治大学
11月29日(土) 予選リーグ 名古屋フラーテル ○1-0	福井クラブ
11月30日(日) 予選リーグ 名古屋フラーテル △0-0	天理大学
12月6日(土) 準決勝 名古屋フラーテル ○3-1	立命館大学
12月7日(日) 決勝 名古屋フラーテル ○1-0	箕島ホッケークラブ



第88回全日本ホッケー選手権大会 (3年連続18回目)

2014年度公式戦終了
応援ありがとう
ございました!

これも日頃よりご支援・ご声援を頂いております
スポンサー企業様をはじめ、フラーテルファン
の皆様、関係者の皆様の力に他なりません。深く
感謝申し上げます。

2014年シーズンは「国内四冠」
を遂に達成することができました。

2015年シーズンも引き続き、ご声援を宜しくお
願い致します。

次号Vol.26は

5月頃発行予定

2015年度新チーム紹介
公式戦スケジュール

... e t c

FRATER FAMILY ONLY for MEMBERS

http://www.frater.or.jp/



Vol.25



FRATER FAMILY

2014年度GAMEプレビュー
2014年度公式戦 全試合結果



祝4冠達成
Vol.25
2015.3

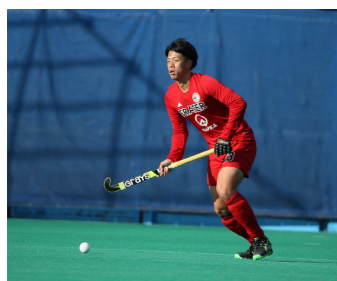
ONLY for MEMBERS



- 発行元：特定非営利活動法人愛知スポーツ倶楽部 ●発行人：神戸 勝
- 事務局：〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目2-11 ナビタ名灯ビル
- 編集人：安井妙子 ●監修：錦織 拓 ●愛知スポーツ倶楽部HP：<http://www.aichisportsclub.com/>
- メール：info@aichisportsclub.com ●名古屋フラーテルHP：<http://www.frater.or.jp/>

©AICHI SPORTS CLUB ©NAGOYA FRATER HOCKEY TEAM
この冊子に掲載されている全ての情報(文字、写真、イラスト等)及び全体は編集著作物として著作権の対象となります。許可無く引用・転載複製を行うことを禁じます。

全日本選手権 予選リーグ 2014年11月28日(金) VS 明治大学 (奈良・親里ホッケー場)



名古屋フラーテル ホッケーチーム	3	<table border="1"> <tr><td>1Q</td><td>0-0</td></tr> <tr><td>2Q</td><td>2-0</td></tr> <tr><td>3Q</td><td>0-0</td></tr> <tr><td>4Q</td><td>1-0</td></tr> </table>	1Q	0-0	2Q	2-0	3Q	0-0	4Q	1-0	0	明治大学
1Q	0-0											
2Q	2-0											
3Q	0-0											
4Q	1-0											

予選プール初戦は、学生インカレ3位の明治大学との対戦。今大会は、国内公式戦で初めて15分×4クォーター制のルールが導入された。
開始から巧みなパスワークを展開するが、決定的なチャンスを掴めず、両者無得点で第1Q終了。第2Qに入ると、18分PCから#17橋が先制点を決める。続く29分にも同じくPCから#16畠山が右中段に豪快なフリックを決め、2-0で折り返す。
第3Qも終始試合の主導権を握るが、明治の堅い守備に阻まれ、追加点を奪えない。第4Qは52分#17橋から#21竹中へと繋ぎ、最後は#13山下が追加点を決め、3-0とする。明治も速いテンポでの攻撃を試みるが、怪我の#19高瀬に代わり出場したGK#24新本を中心に、DF陣が安定した守備で隙を与えず、このまま試合は終了した。思うように得点を重ねることができなかったが、初戦を白星で飾り、勝点3を獲得した。



※イメージ写真

全日本選手権 予選リーグ 2014年11月29日(土) VS 福井クラブ (奈良・親里ホッケー場)



名古屋フラーテル ホッケーチーム	1	<table border="1"> <tr><td>1Q</td><td>0-0</td></tr> <tr><td>2Q</td><td>1-0</td></tr> <tr><td>3Q</td><td>0-0</td></tr> <tr><td>4Q</td><td>0-0</td></tr> </table>	1Q	0-0	2Q	1-0	3Q	0-0	4Q	0-0	0	福井クラブ
1Q	0-0											
2Q	1-0											
3Q	0-0											
4Q	0-0											

予選プール第2戦は、社会人4位の福井クラブとの対戦。日本代表FW三谷をいかに抑えるかが鍵となる。
第1Qはややフラーテルが押し気味の展開とするが、なかなかサークルにボールを運べない。試合が動いたのは第2Q、19分左バックラインの角度の無い位置から身体を回し込みながら、#9藤本がゴール右下にシュートを叩き込む。更に28分PCから#5佐々木が強烈なシュートを放つが、惜しくもゴールポストに当たり追加点を奪えず、1-0で第2Q終了。迎えた第3Q、一進一退の拮抗した展開が続くも、フラーテルDF陣は要所を押さえて福井にシュートを打たせない。第4Q、48分福井は遂にPCからシュートを放つが、GK#24新本がクリア、その後も福井の猛攻を凌ぎ、1-0で勝利を挙げる。勝点を6に伸ばし、予選プール最終戦を残して、2位以上が確定し準決勝進出を決めた。



※イメージ写真

全日本選手権 予選リーグ 2013年11月30日(日) VS 天理大学 (奈良・親里ホッケー場)



名古屋フラーテル ホッケーチーム	0	<table border="1"> <tr><td>1Q</td><td>0-0</td></tr> <tr><td>2Q</td><td>0-0</td></tr> <tr><td>3Q</td><td>0-0</td></tr> <tr><td>4Q</td><td>0-0</td></tr> </table>	1Q	0-0	2Q	0-0	3Q	0-0	4Q	0-0	0	天理大学
1Q	0-0											
2Q	0-0											
3Q	0-0											
4Q	0-0											

予選プール第3戦は、学生インカレ2位の地元天理大学との対戦。予選プールでは一番の難敵である。
両チームスピード感あふれるパスの応酬によりサークルを目指す、決定的なシュートチャンスは訪れないまま第1Qは終了する。第2Q、フラーテルはPCから#17橋がフリックシュートを放つがGKの好守に阻まれ得点ができない。一方天理は左のセンターリングからタッチシュートを狙うも合わせきれない。手に汗握る攻防が繰り返される。第3Q、38分左45度のサークルトップから#11川上啓が強烈なシュートを放つがこれもGKに弾かれる。その後天理に立て続けにPCを与えるが、フラーテルは得点を許すことなく、結局両者無得点のまま試合終了。予選プール最終戦は悔しい引き分けとなった。フラーテルは3戦2勝1分勝点7、A組1位で準決勝進出へと、駒を進める。



※イメージ写真

全日本選手権 準決勝 2014年12月6日(土) VS 立命館大学 (奈良・親里ホッケー場)



名古屋フラーテル ホッケーチーム	3	<table border="1"> <tr><td>1Q</td><td>0-0</td></tr> <tr><td>2Q</td><td>0-0</td></tr> <tr><td>3Q</td><td>2-1</td></tr> <tr><td>4Q</td><td>1-0</td></tr> </table>	1Q	0-0	2Q	0-0	3Q	2-1	4Q	1-0	1	立命館大学
1Q	0-0											
2Q	0-0											
3Q	2-1											
4Q	1-0											

準決勝は、B組2位立命館大学との対戦。立命館は、インカレで優勝を果たした勢いのあるチームである。
開始早々相手ヒットを受けて、左親指を負傷した#8塩川が戦線離脱する苦しい展開。しかし、#3粥川を中心とするDF陣の盤石な守備で、攻撃の芽を摘んでいく。第2Q、ワンチャンスを生かすべく積極的にゴールを狙うが、枠を捉えきれない。
そして第3Q、32分#9藤本からのパスを受けた#12吉原がシュートを決めついに先制点をもぎ取る。直後の33分にはPCから#1中山が押し込み2-0とする。フラーテル優位の流れに立命館が喰らいつき、44分に今大会初失点の1点を奪われ2-1とされる。第4Qも無尽蔵のスタミナを持つ立命館が激しい追撃をするがこれをかわして残り3分、#4小野が「技あり」のルーブシュートを決め、3-1で試合終了、立命館を下して決勝へ進出、大会3連覇に王手をかけた。



全日本選手権 決勝 2014年12月7日(日) VS 箕島ホッケークラブ (奈良・親里ホッケー場)



名古屋フラーテル ホッケーチーム	1	<table border="1"> <tr><td>1Q</td><td>1-0</td></tr> <tr><td>2Q</td><td>0-0</td></tr> <tr><td>3Q</td><td>0-0</td></tr> <tr><td>4Q</td><td>0-0</td></tr> </table>	1Q	1-0	2Q	0-0	3Q	0-0	4Q	0-0	0	箕島ホッケークラブ
1Q	1-0											
2Q	0-0											
3Q	0-0											
4Q	0-0											

決勝戦は、今シーズンに入って社会人選手権、国体と既に二度顔を合わせている和歌山・箕島ホッケークラブとの対戦。NHKにて全国中継が行われた。
開始から激しい攻防が繰り返される。8分PCから#16畠山が右中段にフリックシュートで先制点を決め、流れを引き寄せた。第2Qに入り、#11川上啓、#17橋、#6河内が次々シュートを打つが、わずかに外れ2点目が無い。
第3Q、39分#17橋が放つリバースシュートに#12吉原が反応するも、箕島GKの好セブに阻まれる。追加点を奪えぬまま、第4Qに入ると、箕島が積極的に攻撃を仕掛ける。PCなど決定的なシーンを作られながらも何とか守りきり、そのまま試合終了。1-0で勝利し、3年連続18回目となる頂点に立った。これにより、社会人選手権、国体に続き、3冠目を獲得し、残すタイトルは日本リーグのみとなった。



HOCKEY JAPAN LEAGUE 第4節 2014年11月8日(土) VS 小矢部RED OX (富山・小矢部市ホッケー場)



名古屋フラーテル ホッケーチーム	2	<table border="1"> <tr><td>前半</td><td>2-0</td></tr> <tr><td>後半</td><td>0-2</td></tr> </table>	前半	2-0	後半	0-2	2	小矢部RED OX
前半	2-0							
後半	0-2							

第7戦は、フラーテルOB坪内選手、前田選手率いる地元小矢部RED OXとの対戦。
前半13分相手ボールを奪った#4小野がゴール前へパス、うまく入り込んだ#2川上良がピタリと合わせ先制点を挙げる。続く19分にはPCから#5佐々木が強烈なヒットシュートを叩き込み、2-0。その後は決定的なチャンスを活かせず2-0で前半を終える。
後半に入り、追加点の欲しいフラーテルに対して、地元高校生の応援を受けた小矢部が反撃。54分ゴール前の混戦から押し込まれ2-1とされる。62分にはタッチシュートを決められ遂に2-2の同点となる。更には69分、70分と立て続けにPCを奪われるが、ここは#13山下、GK#19高瀬の好セブで凌ぎ、試合終了。前半に3点目が奪えなかった攻撃の詰めが甘さで勝利に届かず、開幕からの連勝は6で止まった。



HOCKEY JAPAN LEAGUE 第4節 2014年11月9日(日) VS 法政大学 (富山・小矢部市ホッケー場)



名古屋フラーテル ホッケーチーム	10	<table border="1"> <tr><td>前半</td><td>5-0</td></tr> <tr><td>後半</td><td>5-0</td></tr> </table>	前半	5-0	後半	5-0	0	法政大学
前半	5-0							
後半	5-0							

第8戦は小雨の中、法政大学との対戦。早い時間帯に先制し有利にしたいところ。
開始から得意のパス攻撃が炸裂。6分#17橋が右から切り込みゴール前にパスし、#9藤本が決めて1-0。続いて7分にも#17橋、13分には#2川上良がリバウンドを左から押し込み3-0。19分#9藤本からのパスを#12吉原が決めて、着々と得点を重ねる。更に28分左から持ち込んだ#4小野がGKを抜き去り、前半を5-0とリードする。
昨日の反省を生かすかのように後半に入っても手を緩めることなく、38分PCから#14長澤がフリックを決めると、42分には#23柳本の打ったこぼれ球を#17橋が決めて7-0。58分には#22大門からのパスを受けた#12吉原が8点目。62分#23柳本がこぼれ球を決めて9点目。66分には#17橋がハットトリックとなるこの日3点目を決め、終わって見れば10-0の大量得点、完封勝利で富山シリーズを締めくくった。



HOCKEY JAPAN LEAGUE 第5節 2014年12月13日(土) VS Selrio島根 (埼玉・飯能市阿須運動公園ホッケー場)



名古屋フラーテル ホッケーチーム	6	<table border="1"> <tr><td>前半</td><td>5-0</td></tr> <tr><td>後半</td><td>1-2</td></tr> </table>	前半	5-0	後半	1-2	2	Selrio島根
前半	5-0							
後半	1-2							

第9戦は、積雪の影響から、なかなか練習環境が整わないというSelrio島根との対戦。
立ち上がり動きの堅い島根DFから、8分PCから#16畠山がフリックシュートで先制する。12分#13山下の打ち込みを#9藤本、16分左からのパスを#6河内、直後の17分には#9藤本のセンターリングを#23柳本が決めて、4-0と島根を突き放す。更に27分PCから#5佐々木が5点目を決め、効率の良い攻撃と安定した守備により5-0で前半を折り返す。
ところが、後半に入り小さなミスが目立つフラーテルは島根の反撃にあう。37分ヒットシュートを決められて5-1。53分にはゴール前のタッチシュートから失点する。フラーテルは59分#22大門が後半初得点を決め立て直しをはかる。島根の執拗な攻撃に苦しむが、全員守備で封じて6-2で試合終了。後半の展開に課題は残るが、無事白星を挙げた。



HOCKEY JAPAN LEAGUE 第5節 2014年12月14日(日) VS 診療印刷 (埼玉・飯能市阿須運動公園ホッケー場)



名古屋フラーテル ホッケーチーム	5	<table border="1"> <tr><td>前半</td><td>1-0</td></tr> <tr><td>後半</td><td>4-2</td></tr> </table>	前半	1-0	後半	4-2	2	診療印刷
前半	1-0							
後半	4-2							

第10戦は、技術の高い若手が加入し打倒フラーテルに燃える診療印刷との対戦。
フラーテルは淡々と、非常に冷静なプレーで試合を運ぶ。18分、4本目となるPCでようやく#10山部が決める。その後も度々チャンスは訪れるが、ラストパスが合わない。34分には診療に近距離でのシュートを許すが、幸い枠を外れ、1-0で前半終了。
後半38分右からのセンターリングを#17橋が見事に合わせ2-0とする。39分にもゴール前でパスを受けた#12吉原が確実に決め3-0。ところが、直後の42分、47分と連続失点を喫す。その後も診療の反撃は続くが、守備陣が落ち着きを取り戻す。そして68分#1中山、69分#17橋が決めて、粘る診療を5-2で下し、埼玉シリーズを2連勝で乗り切った。2位に付ける天理も連勝しよいよ大詰め。次週舞台を山梨に移し、千秋楽を迎える。



HOCKEY JAPAN LEAGUE 最終節 2014年12月21日(日) VS 天理大学ベアーズ (山梨・山梨学院ホッケースタジアム)



名古屋フラーテル ホッケーチーム	2	<table border="1"> <tr><td>前半</td><td>2-1</td></tr> <tr><td>後半</td><td>0-0</td></tr> </table>	前半	2-1	後半	0-0	1	天理大学ベアーズ
前半	2-1							
後半	0-0							

最終戦は今シーズン無冠で最後のタイトルに望みをかける天理大学。
序盤硬さの見られるフラーテルは隙をつかれ、8分天理にリバウンドを押し込まれ先制点を献上する。しかし、10分右サイドから攻撃を仕掛け、ゴール前で待ち構えた#9藤本が同点ゴールを決め、直ぐ様試合を振り出しに戻す。ようやく硬さが取れたフラーテルは、得意なパスワークで天理を揺さぶる。34分右から#14長澤が起点となり、最後は落ち着いて#17橋が決めて、2-1と勝ち越す。
後半に入り試合は一層激しさを増す。PCなど決定的なチャンスも訪れるが、両者鉄壁の守備で互いに追加点が見出せない。そして共に好機を生かせぬまま、2-1で試合終了のホイッスルが鳴る。2年連続9回目の優勝を飾り、創部初年度以来8年ぶりとなる悲願の四冠を達成した。

